

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立船木中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0856

愛媛県新居浜市船木甲3754番地の1

E-mail funj-ad@esnet.ed.jp

Website <http://funaki-j.esnet.ed.jp/cms/>

幼児児童生徒数 男子 90 名 女子 83 名 合計 173 名

幼児・児童・生徒の年齢 歳 ~ 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

本校は、「環境の視点から、持続可能な発展を目指し、私たちはどのように生き抜けばよいのか考えよう」をテーマに活動を行った。今年度、当校のESDは環境教育を柱として、船木中学校校区に重点を置いた活動に取り組んできた。ESDの実践を通して、生まれ育った地域を愛し、故郷に貢献できる人材の育成を目標とした。

本校校区は南に四国山地があり、自然豊かな地域である。今一度、地域の自然環境を見直す活動を取り入れた。また、今まで行ってきたボランティア活動を見直し、より地域の人たちとのつながりを実感できるよう活動にした。

① 船木校区の緑豊かな自然を見直す活動

(SDGs17 「陸の豊かさも守ろう」に関連)

○ ニホンイシガメに関する講演会

総合的な学習の時間を利用して、愛媛県立とべ動物園の前田洋一副園長を講師として招き、ニホンイシガメと船木校区の自然環境についての講演会を実施した。

○ 下かぶと山登山

校歌や地域の郷土芸能「かぶと踊り」に出てくるかぶと山登山を実施した。今年度は、夏休みを利用して有志での実施となった。

② 地域貢献、地域ボランティア

(SDGs11 「住み続けられるまちづくりを」に関連)

- 花いっぱい運動
地域の緑化活動団体に協力し、校区の幹線道路に置く花のプランターづくりを行った。
- 地域ボランティア
自治会、公民館主催の活動の準備、片づけの手伝いや地域の福祉施設の清掃ボランティアを実施した。



当校は校区の南に四国山地があり、四国山地を源とする川が校区を横断している。また、四国２位の規模を誇る農業用溜め池「池田池」があり、地域のシンボルとして、地域住民に親しまれている。雨乞いの踊りである郷土芸能「かぶと踊り」、当校の効果にも出てくる信仰の対象であった「かぶと山」がある。これらの地域の自然を見直すことにした。その活動の第一歩として、生徒たちの父母、祖父母の時代に行われていたかぶと山登山を行った。

愛媛県絶滅危惧種に指定されている「ニホンイシガメ」が当校校区に生息しており、愛媛県立とべ動物園が保護のため追跡調査を行っている。

(２) 活動の詳細

① 船木校区の緑豊かな自然を見直す活動

○ ニホンイシガメに関する講演会

本校校区には、愛媛県絶滅危惧種に指定されているニホンイシガメが生息している。愛媛県立とべ動物園が２０年にわたり追跡調査、保護活動をしている。総合的な学習の時間を利用して、愛媛県立とべ動物園の前田洋一副園長を講師として招き、ニホンイシガメと船木校区の自然環境についての講演会を実施した。

ニホンイシガメについて初めて知った生徒たちがほとんどであった。生徒たちは、船木校区の自然を守っていかなければならないという気持ちをもつことができた。

この活動は、中学校だけではなく校区全体の問題と考え、小学校とも連携し、同時期に小学校でも同様の講演会を実施した。

○ 下かぶと山登山

校歌や地域の伝承芸能「かぶと踊り」に出てくるかぶと山登山を行った。地域の見守り隊の名称や公民館報の名前にも「かぶと」の名が使わ

れており、かぶと山は地域のシンボルとして親しまれている。標高1234mの下かぶと山の頂上には、船木校区を見守るように祠が設置されており、地域信仰の対象でもあるが、山頂まで登山したことのある地域住民は少ない。

今年度、全校生徒に呼び掛け、有志での実施ではあるが、夏休みを利用して下かぶと山登山を実施した。趣旨に賛同してくれたPTA会長も登山に同行してくれた。約7時間の登山となった。生徒たちは山頂からの景色や緑多い自然に感動したことはもちろんであるが、荒れ果てた登山道、以前は登山道への道標となっていたであろう朽ちた標識を自分の目で確認することになった。このままではいけないと感じた生徒もおり、来年度の登山では新しく標識を立て直そうということになった。

② 地域貢献、地域ボランティア

住み続けられるまちづくりを進めていくためには、安全に安心して住むことができるまちづくりを実現していくことが必要である。本校では、生徒が安心して学校生活を送ることができるように、平成27年度から、月に一度地域の諸団体、PTA、小学校と情報を交換する会「かぶとの会」を実施している。共有した情報をもとに、それぞれの立場で子どもたちの生活を見守り活動を行っている。

生徒たちも、地域の方々にいろんな場面で声を掛けられることで、地域に支えられていることを実感している。そこで、地域行事や諸団体の活動に生徒の方から積極的に参加し、地域とのつながりをより強いものにしていくと活動している。

本校校区は世帯数約3000で少子高齢化が進んでいる地域である。子どもたちが、自分が育った地域に誇りや愛着をもつことができ、「将来にわたって船木の人間でありたい。」という気持ちを育てなければ、まちそのものの存在が難しくなる。まちづくりには、地域の中で認められる、自己肯定感を高めることができることが重要である。これらの活動を通して、生徒たちは、「ありがとう」と声を掛けられることが多くなった。ボイスシャワーの重要性を地域全体で理解し、活動に取り組んでいる。

次に示す活動は全て、休日や長期休業中の活動である。生徒たちは、部活動などを考慮し、自分で計画を立てて参加している。どの活動においても、全校生徒の25%程度の生徒が自主的に参加している。

この活動を通して、かぶとの会において、地域の方から学校の運動場の除草など、子どもの学習環境に関する提案もあり、今後の検討課題となっている。

○ 花いっぱい運動

地域の緑化団体「愛花人」が校区の幹線道路に約700のプランターを設置しており、年2回花の植え替えをしている。プランター用の土を作るために運動場の一角を提供することもあり、この活動に協力している。以前は、日程を調整し、学習の一環として行っていた時期もあるが、生徒の自主性、主体性を育てるため、休日の活動の活動とした。休日の活動なので保護者の参加もあり、保護者同士、保護者と地域の人たちがつながる場にもなっている。

○ 地域ボランティア

かぶとの会で得た情報をもとに地域にボランティア活動に出ている。かぶとの会において協力を要請されたり、ボランティア活動を受け入れてくれそうな場所や施設の情報を得たりしながら行っている。今年度は、自治会主催の行事である校区運動会、校区芸能祭、校区文化祭の準備や片付け、地域活動の拠点となっている公民館の年末大掃除、地域の福祉施設での清掃活動を実施した。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 教育課程外)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

船木中学校区のグランドデザインに「地域の教育力を生かした持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の推進」と明記しており、年度当初から全教職員共通理解のもと進めている。ＥＳＤカレンダーを作成し、他教科との関連を意識しながら、各教科担任が授業に取り組むことができるようにしている。

４月下旬に、ＥＳＤオリエンテーションを全校生徒に実施しており、明確な目標をもって取り組むことができるようにしている。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

年間計画をもとに、毎月行っている運営委員会で取組や行事について協議した後、職員会で共通理解を図っている。かぶとの会で、地域団体や公民館とも情報交換し、お互いに無理のない日程で進められるようにしている。

休日の活動においても、学校の年間計画に位置付け、教職員間で調整している。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

かぶとの会において、活動の反省点について話し合っている。また、また、学校関係者評価委員会においても反省点を話し合っている。地域から得た外部評価を職員会で、共通理解を図った上で、改善点について話し合っている。内部評価として利用できるチェックシート等の作成にまでは至っていない。内部評価は十分できていないのが現状である。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

活動の成果や様子については、学校便りに掲載して発信している。本校のＥＳＤは地域に根付いた活動であるため、地域全体に活動内容や結果を知らせることができるように、公民館の力を借り学校便りを船木校区の全世帯に配布している。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）
（２００字程度）

地域の諸団体との協働については十分できている。来年度から、かぶとの会が学校運営協議会を兼ね、コミュニティ・スクールへ移行する。今後、この場を借りて地域連携を図っていききたい。

今年度、ニホンイシガメの活動について、県立とべ動物園と連携を取った。来年度は、具体的な活動内容についても協議し、連携をしていきたい。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

新居浜市が行っているＥＳＤの発表会に参加し、市内の他の学校の取組について聞き、自校の取組に生かしている。他市、他県のユネスコスクールとの交流はできていない。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

今年度、ESDの取組で「かぶと山登山」を実施した。地域の諸団体の中にも地域の自然を見直そうという動きが出てきた。来年度、地域のレクリエーション団体である「楽スポ船木」がかぶと山登山を実施することになった。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、環境教育と地域貢献、地域ボランティアの2本の柱でESDを推進していく。特に環境教育の「ニホンイシガメ」の学習については県立とべ動物園、船木小学校と連携を取りながら進めていく予定である。県立とべ動物園と協議しながら、ニホンイシガメが生息している地域の清掃活動など、生息地域の環境保全活動に繋がるようにしていきたい。

本校は、来年度よりコミュニティ・スクールに移行する。地域貢献、地域ボランティアについては、学校運営協議会を中心に協議し、より地域のニーズに合ったものに改善していく予定である。

ESDを推進していく中で、本校の特色を発信していきたい。